

令和5年度 学校評価報告

草加市立新栄中学校
(令和6年2月5日作成)

1 学校教育目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・健康でたくましい生徒 ・正しい行動のできる生徒 <p>目指す学校像：生徒も教師も「居心地のよい明るく活力のある新栄中学校」</p>	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
学力向上と自己肯定感・有用感の育成 ・埼玉県学力学習状況調査の国語・数学・英語における学力の伸び率3以上を目指す。 ・主体的に学ぶ授業を展開し、自己肯定感・自己有用感を10%以上高める。	成果 ○学校関係者評価において「研究・研修」高評価 ○教職員自己評価において特に「教科指導」高評価 課題 ●「地域との連携・開かれた学校」について、学校運営協議会の活用、地域人材の登用が課題。

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校長による学校経営方針を理解して教育活動を行うことができた。 ○R5年度は校務分掌表を改訂し、組織的な業務が可能となり、業務の効率が上がった。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○研修主任を中心に計画的に研修ができた。 ○R5年度は校務分掌上の各プロジェクトチーム主催で外部講師を招いての研修を行い、校内研修を充実させた。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の代表とともに安全点検も定着し、引き続き積極的な事故防止ができた。 ○コロナウイルスやインフルエンザなど感染症の対応を迅速にできた。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報持ち出し簿を用いて管理できた。 ○校内パソコン・校支援システムの活用、情報の漏洩防止等で情報管理は徹底できた。 ○市の施設課と連携して適切に学校施設の修繕を進めることができた。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校情報の発信は、学校だより・学校メール・ホームページ掲載等で行った。 ○学校運営協議会の内容を充実させた。熟議により提案された学校支援策を実際に行った。 ●学校運営協議会を通じて、地域の方々の協力をさらに集める手段を考えることが課題である。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○幼保小中一貫教育担当者会議の内容について通信を発行し、教職員の意識を高めることができた。 ○家庭学習や親子読書デー等、中学校区での一貫教育を行うことができた。 ●研究発表会が終わり、他の業務との相対的な優先順位が下がってしまった。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時数にゆとりを持たせることで、無理なく順調に教育課程を進めることができた。 ●年間指導計画の見直し、修正等を行う意識は芽生えたが、実践していくことが課題である。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケートから「先生方の授業はわかりやすかったですか」について全学年で肯定的な回答が90%以上であった。 ○年2回の教員同士の授業参観により授業改善を行った。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒アンケートから「思いやりの心を大切にしている」に対する肯定的な回答が全学年とも90%以上であった。 ○いのちを大切に考える学習等行い、地域・家庭との連携が行えた。 ○指導計画や授業内容、評価方法等について学年内統一を進めた。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍が終わり、学校行事を復活させる動きがあるが、働き方改革も念頭に置き、無理のない持続可能な学校行事を行った。 ○学級活動の充実を行い、生徒の学級への所属感を高め、不登校対策を行なった。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○探究的な学びを実現できる課題を設定し、コロナ禍で体験活動ができないながらも充実した活動を設定することができた。 ○「学ぼうふるさと草加」学習を行うことができた。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○社会の変化に対応した生徒指導を目指して、旧来の慣習的な校則の再考を行うことができた。 ○いじめ防止対策会議の充実のため、メンバーや内容について考えることができた。 ○R5年度より学習室を設置し、長欠生徒の学習を保障した。
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導主事を中心に組織的に進路事務に取り組めた。 ○R5は1学年において地域の企業を学校に集め、職業体験を行った。 ●進路指導だけでなく、キャリア教育についてどのようなことが求められているのかを研修する必要がある。
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援コーディネーターを中心に、各学級における特別な支援が必要な生徒に対して適切に対応することができた。
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○学校司書と図書館教育担当を中心に、図書室の整備が進んでいる。学校全体で図書館を活用するために「コラボ給食」などの施策に取り組んでいる。 ●授業や特活、総合での活用方法をICTとの兼ね合いで工夫したい。
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○授業などで日常的にタブレット端末を活用している。 ○業務の効率を高めるために、校支援システムの活用を促進した。
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育担当を中心に研修を行い、教職員の人権感覚の育成を図った。 ○教育活動全体を通して生徒の人権感覚の育成を図った。 	

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	勉強の新栄中	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学習状況調査 ・家庭学習の定着 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月5教科のうち一教科ずつ基礎学力テストを行った。 ○研究主題である「主体性」を柱に学力の向上を目指して研究を行った。それによって、授業改善が進んだ。
	あいさつの新栄中	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動 ・専門委員会の活動 ・校内の様子 ・地域からの評価 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶運動は、校長のリーダーシップや生徒指導部の活動が中心となり、毎朝行われている。定期的に全職員での登校指導と生活委員の挨拶運動も行った。廊下では、必ず挨拶をする生徒の姿が見られ、来校者や地域の方から高く評価されている。朝早くから登校する生徒が多く、挨拶を交わす姿が見られるようになった。
	活力の新栄中	<ul style="list-style-type: none"> ・活気のある行事の取り組み ・活気のある授業風景 ・活気のある部活動 ・活気のある掃除の姿 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用し、「個別最適な学び、協働的な学び」を実現した授業を目指して各教職員が授業改善を行った。 ○清掃活動について、時間を十分に確保し、生徒の主体的な活動を促進することができた。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

成果

- 学校関係者評価において、特に「地域との連携、開かれた学校」の項目において高評価をいただいた。学校運営協議会において学校支援策をまとめ、地域の人材を活用した取り組みが評価された。
- 学校運営に関するもので特に力を入れた項目は「組織運営」である。令和5年度に校務分掌表を改訂した。5つのプロジェクトチームを設置し、各プロジェクトで校内研修を主催するなど機能的な分掌表となった。
- 教育活動に関するものでは「教科指導」において高い評価を行った。新学習指導要領の理念や内容が浸透し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」がICTの活用等によって実現し、主体的・対話的で深い学びが提供できている。また、令和5年度より長欠生徒に対する学習保障として学習室を設置した。さわやか相談室と連携して生徒の実態に応じた学習が保障されている。

課題

- 引き続き学力向上の取組が必要である。
- 効率が高く組織的な業務の推進が必要である。

6 次年度の改善策

①学力向上について

本校では学力向上の一環として、「基礎学力テスト」を行っている。これまでは家庭学習の定着もねらいとしていたため、テスト準備の学習を個人の裁量に任せていた。しかし、学力の低い層では家庭学習の様子があまり見られなかった。令和6年度は基礎学力テスト前に朝自習として学校で時間を確保して学習に取り組みさせる。

②学校の組織力の向上について

校務分掌表の改訂により、組織的な学校運営が可能となったが、未だに業務量の偏りが解消されず、負担感を抱えた教員が多い。各分掌を機能的に運営するために分掌会を開催し、分掌主任に負担が偏らないようにする。また、学校運営協議会を充実させ、地域の力を教育活動に活かしていく。